

令和元年度 学校経営報告書（自己評価）【全日制】

学校番号	40	学 校 名	県立科学技術高等学校	校 長 名	遠藤 克則
------	----	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	日常の学習習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に主体的に取り組んでいると答える生徒80%以上 ・授業の内容がよく分かると回答する生徒80%以上 ・教員は授業を大切にするとともに、分かりやすい授業を行おうと努めていると答える保護者 70%以上 	<p>【92.0%】 達成できた。</p> <p>【89.6%】 達成できた。</p> <p>【77.7%】 達成できた。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の取組が成果を現わしているものと考えられる。 ・わかりやすい授業展開の工夫が生徒に伝わっていると考えられる。 保護者にも、教員の姿勢や努力が理解されていると考えられる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・1日10時間、学習と部活動に集中して取り組んでいると答える生徒60%以上 ・学習と部活動が両立できていると答える生徒70%以上 	<p>【37.5%】 目標には届かなかった。</p> <p>【62.1%】 目標には届かなかった。</p>	<p>C</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間と放課後の活動の相互作用により、充実した学校生活を送るための意識高揚を図る手段を見出す必要がある。 ・学習と部活動の両立に努力している生徒が多いが、できていると答える生徒は6割弱であった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教養力テストの実施 	<p>【テスト実施 20回】</p> <p>予定通り実施した。</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・予定通り実施したが、生徒・職員の負担になっている現実を踏まえ、来年度からは年間 12 回で実施する。
	個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・手帳等を活用し、学校内外の活動を記録している生徒 100%（1、2年生） 	<p>【全体 20.2%】</p> <p>1年 23.7%、2年 16.8%</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト前の1週間の活用状況は、開いている 55%、記録している 61%、携帯している 35%であり、学習計画や学習時間の記録に関しては6割程度の生徒が活用できている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来に対する夢や希望を持っていると答える生徒60%以上 ・信頼できる先生がいると答える生徒70%以上 ・きめ細やかで適切な進路指導がなされていると答える保護者70%以上 	<p>【全体 65.0%】達成できた。 1年 59.9%、2年 58.4%、3年 77.0%</p> <p>【全体 67.3%】 1年 62.1%、2年 65.3%、3年 74.7%</p> <p>【全体 85.5%】達成できた。 1年 69.9%、2年 77.3%、3年 91.8%</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年進行とともに高くなっている。希望進路の実現が、満足度の高さにつながっていると考えられる。 ・学年進行とともに高くなっていることから、様々な指導が評価されこの結果につながっているものと考えられる。 ・学年進行とともに高くなっている。保護者会やHP等による進学や就職先の情報提供、土曜補講や夏季補講等の進学支援体制の充実が、満足度の高さにつながっているものと考えられる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者50人以上 ・就職内定率100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者【40人】 ・高専合格者【3人】 ・就職内定率【100%（見込）】 ※令和2年1月20日時点 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者ともに進路指導体制や進路情報提供に関して、高い評価を得ることができた。多くの先生方の協力があり、生徒の進路実現に繋げることができた。自発的に行動できる生徒がいる一方で、自ら行動できない生徒もいた。進路実現を果たすには支援体制やニーズを満たすだけでなく、生徒自らの行動面が大きな要因を占めるため、この点をいかに指導していくかが課題である。
部活動を効率的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に参加している生徒70%以上 ・学校が楽しいと答える生徒80%以上 ・部活動ガイドライン等を踏まえ、適切な指導ができたと答える教員80%以上 	<p>【71.9%】達成できた。</p> <p>【56.8%】目標には届かなかった。</p> <p>【100%】達成できた。</p>	<p>A</p> <p>C</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各部とも部活動ガイドラインを踏まえ、合理的、効果的な活動を実践する中で全国大会、東海大会出場をはじめ県大会入賞など多くの部活動で成果をあげている。また部活動と勉強の両立ができるよう学習習慣を身につける工夫をこらしている部活動もあった。生徒自らが、課題を見つけ、目標に向け努力する姿勢が身につけば更なる成果が期待できると思われる。 ・部活動ガイドライン等を踏まえ、適切な指導ができている。

	生徒主体の活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会が企画した事業の実施年2回以上 	<p>【生徒会を中心に、体育祭や文化祭、ボランティアや地域との交流活動、国際交流などを実施】</p> <p>生徒評価：行事は生徒が主体的にかかわれるように企画されている。【68.8%】、委員会や当番の仕事がきっちりできている。【82.1%】</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭や文化祭では、企画から運営まで生徒会が中心となり行い、自主性や実践力、団結力の高揚につながるなど、人間的な成長を促す機会となった。また地域との交流活動や姉妹校との国際交流では学校の良さを内外に発信し成果を納めることができた。今後は委員会活動の更なる活発化により生徒の自主性を育てたい。
	探究的な教育活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究への主体的な取組を促すとともに、STEM教育等、大学等と連携し、全学科で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 2/3以上の学科で、大学と連携し、探究的な活動を実施することができた。主な連携先は、静岡大学、東海大学、ふじのくに地球環境史ミュージアム、国土交通省等。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究の内容に応じた外部との連携を図ることができた。さらに生徒の主体性を伸ばせるよう工夫を進めていきたい。理工系科目の基礎となる教育を統合して行うSTEM教育の概念を取り入れ、イノベーションを生み出せる人材育成を進めていく必要がある。大学研究機関との情報交換を密にしながら連携を強化する。
イ	専門分野の能力を向上させるとともに、必要な資質を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 全国大会出場、全国規模のコンクール等の入賞（在籍科別） 【機械工学】 全国高校生コマ大戦名古屋モーターショー場所と第4回全国人工衛星・探査機模型コンテストに参加。全国及び東海ものづくりコンテスト旋盤部門に出場。 愛知県高校生溶接競技大会出場。 第8回静岡県ものづくり競技大会 旋盤部門：第3位（来年度、東海大会出場）、第4位。溶接部門：第6位。機械製図CAD部門：第3位。 【ロボット工学】 県高校生ロボット競技大会で自律制御ロボット部門2チーム入賞（3位、5位） 「ロボットアイデアコンテスト」全国大会出場。 【電子工学】 ジャパンマイコンカーラリー2020 全国大会出場（2部門）。 	<ul style="list-style-type: none"> 【機械工学】 コマ大戦9名。人工衛星・探査機模型コンテスト10名。旋盤全国・東海大会1名。愛知県溶接競技大会3名が参加、出場した。学科3学年117名に参加の機会を与えて、学科全体に技術向上の雰囲気を培った。 【ロボット工学】 生徒独自の発想からロボットを製作し、創造性、問題解決能力を養うことができた。 【電子工学】 3Dプリンタで作成したタイヤを装着して、11年連 	A A A	

		<p>Basic クラス 1 台、画像処理クラス 1 台</p> <p>【情報システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 14 回若年者ものづくり競技大会（I T ネットワークシステム管理）出場 ・第 8 回静岡県ものづくり競技大会 総合の部 I T ネットワークシステム管理部門：第 1 位、第 3 位、第 5 位 高校生の部シーケンス制御部門：第 1 位（来年度、プレ東海大会出場） ・静岡県体育協会フッターデザインコンクール：佳作 <p>【建築デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海ものづくりコンテスト、各種設計競技、論文等の対外競技で、40 以上の入賞。 ・ものづくり競技大会木材加工部門、第 18 回東海大会優勝、第 19 回全国大会出場。 ・第 8 回静岡県ものづくり競技大会 木材加工部門：第 1 位（来年度、東海大会出場）、第 5 位、第 6 位 <p>【都市基盤工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海ものづくりコンテスト測量競技大会出場。 ・第 8 回静岡県ものづくり競技大会 測量部門：第 1 位（来年度、東海大会出場） <p>【物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 19 回ものづくりコンテスト東海大会化学分析部門優勝。第 19 回ものづくりコンテスト全国大会（近畿大会）化学分析部門に出場 ・第 8 回静岡県ものづくり競技大会 化学分析部門：第 3 位（来年度、東海大会出場） 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>続の出場を果たした。また、画像処理クラスに初参加し、地区大会で優勝し、全国大会へ出場を果たした。</p> <p>【情報システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県ものづくり競技大会で優勝し、全国大会に出場できた。継続して指導していきたい。 ・シーケンス制御部門の生徒は、ロボット研究部に所属して活動している。 <p>【建築デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築デザイン科の授業を発展させ、建築研究部の活動を含め各教員の指導により大きな成果を残した。次年度も同様、継続することが課題。 <p>【都市基盤工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 年連続出場を果たした。 <p>【物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国大会では惜しくも入賞を逃がした。
--	--	---	-------------------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格等の受験者数及び合格者数の増加 全ての学科において高度資格への積極的な取組が見られ、高い合格率を維持することができた。 <p>【機械工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度資格の受験者延べ 208 人→合格者延べ 52 人 ・主に、技能士（受験者 96 人→合格 34 人）、溶接評価試験（受験者 13 人→合格 7 人）、ジュニアマイスター特別表彰（ゴールド有 10 人）、ゴールドのみ（5 人）、シルバー（5 人）、ブロンズ（1 人）など <p>【電気工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三種電気主任技術者受験者（受験者 15 人→2 科目合格 1 人、1 科目合格 2 人） ・第一種電気工事士受験者（受験者 40 人→筆記合格 14 人、技能合格 12 人） <p>【ホット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 2 種電気工事士（受験者 36 人→合格者 23 人） ・技能検定 3 級シーケンス制御（受験者 18 人）※ 3 月 15 日発表 ・高度な資格受験者が学科の 45%以上 <p>【電子工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DD 三種（受験者 39 人→合格者 36 人） 合格率（昨年度 88% →92.3%） ・第 2 種電気工事士（受験者 17 人→14 人合格） 合格率（82.4%） <p>【情報システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本情報技術者試験（受験者 22 人→合格者 7 人） 合格率 32% ・DD 三種（受験者 42 人→合格者 38 人） 合格率 91% ・第二種電気工事士（受験者 15 人→合格者 9 人） 合格率 60% ・A I 三種（受験者 7 人→合格者 7 人） 合格率 100% ・I T パスポート（受験者 2 人→合格者 2 人） 合格率 100% <p>【建築デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2 級建築施工管理技士（受験者 26 人→合格者 6 人） ・大工技能士 3 級（受験者 11 人→合格者 2 人） 大工技能士 2 級 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能検定では、静岡県職業能力開発協会の協力のもと、ものづくりマイスター派遣事業を活用して、高度な技術指導を受けたものもある。 <p>A 【機械工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「技芸を磨く実学の星」事業の助成を受け、熟練技能者を招き指導を実施した。また、ものづくりマイスター制度を活用して、検定や大会の技術指導を受けた。 <p>A 【電気工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝補習を昨年に引き続き実施し、参加者は理解を深めた。課題は電験三種を科目合格すること。 <p>A 【ホット工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学科との連携で電気工事講習を実施。指導できる教員が減り、補習担当時間が多くなった。 <p>A 【電子工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合格率が高くなった。 <p>A 【情報システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携を堅持し、更に合格者増を目指す。 <p>A 【建築デザイン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年より多くの生徒が受験した。
--	--	--

		<p>(受験者 3 人)</p> <p>【都市基盤工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 級土木施工管理技術検定試験 2 年生の合格率92% (33人/36人) 3 年生の最終合格率98% (39人/40人) ・ 2 級造園施工管理技術検定試験 3 年生の合格率34% (10人/29人) ・ 測量士補 2 年生合格者 2 人、3 年生合格者 4 人、計合格者 6 人、合格率 43% (6 人/14 人) <p>【物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険物取扱者乙種 (1 ~ 6 類) (受験者 84 人→合格者 40 人) ・ 危険物取扱者甲種 (受験者 3 人→合格者 2 人) ・ 化学分析技能士 3 級 (受験者 9 人→合格者 7 人) ・ 毒劇物取扱者 (受験者 1 人→合格者 1 人) <p>【理工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 年生在籍 41 人 英検 2 級合格者 7 人 同準 2 級合格者 32 人 		<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>【都市基盤工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度資格となる国家資格を複数持つ生徒を多く輩出した。 [国家資格 3 つ (2 人)、国家資格 2 つ (8 人)、国家資格 1 つ (29人)] <p>【物質工学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、合格発表の資格もあり、合格者の確定は 2 月末になる。 <p>【理工】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度 2 級合格者 6 人 同準 2 級合格者 30 人
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学科で技術者倫理に関する指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報モラルや公害問題等、過去の事例及び未来への注意点等を、座学と実習を通して全学科で指導した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工業の技術が、世の中でどのように利用されているのか、学習した内容が世の中でどのように役に立っているのかを実感を持たせることにより、誤った方向に技術が使われないように指導を行った。 ・ 情報管理の徹底や、リサイクル及び資源の有効利用等、技術者としての自覚を促した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校と交流し、障がい配慮した教材を製作、寄贈する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいに配慮した生活用具の試作品を製作した。今年度は特別支援学校と交流するまでには至らなかった。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAD を使って生活用具の試作品を製作し、助言を得ながら改良を進めた。また、3Dプリンタを使い、子どもや障がい者が興味を持つキャラクターを製作し、各種イベントに展示した。特別支援学校との交流を進める準備を整えたい。

ウ	グローバル化への対応と国際理解教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 充実した海外研修ができたと答える生徒100% 海外渡航者数 15人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 【100%】達成できた。 【海外研修参加者10人、海外インターンシップ1人、スポーツ少年団交流1人、短期海外留学1人、個人旅行多数】 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、研修地をシンガポールから台湾に変更して実施した。学校交流、台湾文化を肌で感じる地区の見学等を含む研修を行った。台風の接近で帰国便の出発が危ぶまれたが、ほぼ予定通りの研修を実施することができた。 県や本校の海外研修に応募したが参加できなかった生徒も多数おり、海外への関心度は高い。グローバル化する社会で活躍できる人材育成を進めたい。
		<ul style="list-style-type: none"> 英語検定等の受験者数の増加（CEFR B1及びA2レベルの生徒数の増加） 	<ul style="list-style-type: none"> 英検準2級、2級の受験者が合わせて100名増加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 英語科職員全員による合格に向けての指導が定着し、受験者数、合格者数の増加に貢献している。年3回、昼休みと放課後の時間が、その指導に費やされるが、受験者数の増加に伴い、一人が担当する生徒の数にも限界がある。
		<ul style="list-style-type: none"> 海外姉妹校との交流（派遣、受入れ）の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 海外姉妹校である台湾の国立羅東高級工業職業学校との交流活動を実施した。 8月には、10名の生徒が台湾での研修に参加し、姉妹校生徒との交流をはじめ、現地企業の視察等を行った。 12月には、32名の生徒が来日し、本校生徒との交流活動を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 夏の研修には、多数の応募者の中から選抜された10名の生徒が台湾を訪れ、姉妹校生徒との交流活動や、電子機器を製造する現地企業の視察等を行った。事前及び事後研修を重ね、充実したものとする事ができた。 12月には台湾姉妹校から32名の生徒が来日し、本校生徒と様々な交流活動を行った。ペア同士のプレゼント交換や昼食をとりながらの歓談、1年生のHR活動に参加し、金属折り鶴作成・石鹸づくり、煉瓦アーチ橋づくり、ドッジボールで交流した。部活動等の体験も行い、茶道・卓球・応援指導・数学授業・ゲームで楽しみながら交流した。今回はホームステイをする関係で交流の時間が長くとれたことから、より深い交流活動が行えた。
	持続可能な社会の一員としての素養を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶がしっかりとできていると答える生徒95%以上 身だしなみがしっかりとできていると答える生徒95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 【91.8%】昨年度93.0%で、若干低下した。 【94.3%】ほぼ達成できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昇降口指導、校内巡視、頭髮服装検査、交通街頭指導など計画通りに実施し、基本的な生活習慣の確立・規範意識の醸成に学校全体で取り組み生徒の意識高揚につながった。問題行動は昨年より若干増加

	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・携帯電話は適切に利用していると答える生徒90%以上 	<p>【71.5%】目標には届かなかった。</p>		<p>したが、学校全体としては落ち着いた状況であった。情報モラルについてまだ認識の甘い生徒もいるため、家庭との連携を深めるなど今後も継続的な指導をしていく必要がある。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人当たりの年平均図書貸出冊数 2冊以上 ・図書館来館者数 延べ8,000人以上 	<p>【1.8冊】(1月29日現在)貸し出し冊数は1月15日現在延べ2,055冊(一人当たり平均約1.9冊)で、数値目標にはまだ到達していない。</p> <p>【10,679人】(1月29日現在)昨年度の同時期より増加し、当初の目標を達成した。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に可動式書棚を設置し、小論文対策コーナーをより充実させることができた。また、新たに作った工業系や進路に関する漫画のコーナーは、生徒を図書室に呼び込むきっかけとなった。7月初旬に『私の一冊』を発行し、その中で紹介された本を展示することで生徒の読書活動を促した。また、図書館NEWS、新着図書紹介を定期的に発行。文化祭では吹奏楽部、職員有志の協力を得て図書委員会主催のブックトーク&音楽会を開催し、昨年度を上回る来場者数を得た。 ・放課後18:00までの開館時間延長は、本年度も週2日のみ事務補助員に変形労働時間制をとってもらい形で実施した。自習のために利用する生徒も増えてきたため、図書室に常駐する職員を置けるよう要請していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、保育体験実習に参加した生徒の満足度80%以上 	<p>インターンシップ【99%】達成できた。</p> <p>保育体験【100%】達成できた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを商工会議所やNPO法人静岡共育ネットと連携して実施した。指導体制のスリム化を行い、教育効果を保つことができた。生徒の満足度が大変高かった。 ・保育体験参加により、保育士が子どもと接する際の優しさと厳しさや勤労観等を学ぶことができ、満足度が高かった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・資源の大切さを意識させるとともに3Sの意味を理解し、積極的に取り組んでいると答える生徒90%以上 	<p>【61.7%】目標には届かなかった。</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に整備委員会による清掃場所へポスターを掲示し、啓蒙に努めた。整備委員による清掃場所の確認を年2回実施した。

		<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールの遵守に心掛けていると答える生徒95%以上 	<p>【90.9%】 昨年度とほぼ同じ。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 交通街頭指導を計画通りに実施した。
エ	カリキュラム・マネジメントを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領への移行措置等を踏まえ、教育課程を変更する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領での、共通教科の履修単位数や履修学年の制限に起因するカリキュラム編成の問題点が潜んでいることが判明した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の方針を踏まえながら、生徒保護者の希望に即した教育課程の改善を推進する必要がある。
	特別支援教育体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談だよりを、月1回以上発行 1年生全員を対象としたカウンセリングを実施 個別の指導計画及び支援計画の作成 	<p>【月1回発行】達成できた。</p> <p>【1年生全員実施を対象として、5月に実施】</p> <p>【指導計画・支援計画を作成】</p>	A A A	<ul style="list-style-type: none"> 相談室だよりの発行や、相談室の開室等で、ある程度は環境整備ができていますが、今一つ親しみやすくする工夫も必要である。 教員間の情報共有ができた。必要に応じて支援会議を開くことができた。担任や学年部と連携し、スクールカウンセラーの効果的な活用ができた。 支援計画・指導計画は必要に応じて作成できた。専門的な機関のアドバイスを受け、指導の参考にした。
	教職員の資質・能力の向上を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた教員90%以上 授業参観した教員90%以上 授業力自己診断の実施 多様な測定ツールを用いてPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだ教員100% 日常的に授業でICT機器を活用した教員60%以上 	<p>【89.7%】 達成できた。各種研修会等を通して、教職員の資質・能力の向上を支援することができた。</p> <p>【67%】 授業参観については、成果目標の「授業参観した教員90%以上」には、及ばなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業力自己診断を実施することができた。 <p>【89.7%】 目標には及ばなかったが、多くの教員が努力していた。</p> <p>【60.3%】 日常的に授業でICT機器を活用した教員は目標を超えた。</p>	B B A A A	<ul style="list-style-type: none"> 「研修の成果を授業改善や学校運営に役立てた」教員が、「役立てようと努力した」教員も含めて、89.7%であった。ほぼ、目標を達成できたと評価できる。 授業参観した教員は、67%と低い値であった。今後、授業参観の機会を積極的に設ける必要があると感じる。 授業評価アンケート結果を分析し、授業力の自己診断を行い、改善につなげた。 多様な測定ツールを用いてPDCAサイクルによる授業改善に取り組んだ教員が、取り組もうと努力した教員も含めて89.7%であった。これは、かなり高い値で、十分評価出来るものと考えられる。 日常的に授業でICT機器を活用する状況がみられた。

<p>教職員のメンタルヘルスの増進及びコンプライアンスの徹底を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> メンタルヘルス及びコンプライアンスに関する研修の実施 1回以上 	<p>【随時実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県教委が作成するコンプライアンス通信の発行等にあわせて実施した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員のメンタルヘルス及びコンプライアンスの徹底は、常に意識し継続していくことが重要である。
<p>学校教育活動に関する広報を充実する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ週 4回以上更新 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度更新回数【184回】 週平均【4.1回】 ※令和2年1月24日時点HPを昨年度以上に積極的に更新した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の協力および関係各所からの情報を得ながら、定期的に最新記事を更新していくことが出来た。さらに在校生・その保護者だけでなく、本校を受検視野に入れている中学生・その保護者向けの記事も多く更新できた。今後は学校行事の日程上どうしても生じてしまう「記事枯れ」の時期をどうしのいでいくかが課題となる。
	<ul style="list-style-type: none"> ものづくり教室の実施や、校外でのイベント等への参加を各学科で実施 半数以上の学科で2回以上実施した。 【主な実施内容】 県実学チャレンジフェスタ参加 市内中学校での出前授業 県武道館サンクスデー産業フェア参加 県水泳場産業フェア 静岡科学館る・く・る「サイエンス玉手箱」参加 中学生を対象とした科学教室を9月と11月に実施 「ものづくり・マイコンカー教室」実施。 体験入学・オープンスクールでの展示と丁寧な対応 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中学生だけではなく、小学生でも楽しめる展示物を充実させ、広報活動を図ることが課題。 外部へのイベントに参加することにより、一般の方とコミュニケーションをとり、自分たちの研究の内容を伝えるよい機会となった。 中学生やその保護者の方々に、直接取り組みを評価してもらい好印象の声を多く頂いた。 地域や地元の小中学校との交流を図り、学科のPRにつとめる。 来年度は、各種イベント等に積極的に参加する体制を整える 	
<p>校務の円滑、かつ適切な実施を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が校務で共有サーバーを使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ファイルサーバ等の共有機器は、問題なく運用できている。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利便性とセキュリティ確保の観点からバランスの取れた運用方法を見出したい。また、迅速な障害復旧できる体制を整える必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善提案を募る。 勤務時間が減少したと答える教員50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 職員から19件の業務改善提案を受け付けた。 【23.5%】 勤務時間が減少したと感じる教員は23.5%であった。 	<p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「やめる、減らす、変える」ことにより、業務の効率化、多忙化解消及び教育の質の向上を図り、現状の業務の改善を進めていく必要がある。 勤務時間が減少したと感じている教員は少なく、抜本的な業務見直しを図り、改善することが必要である。

		<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒と向き合う時間」や「授業準備時間」が増えたと感じる教員50%以上 	<p>「あまり感じない」と答えた割合が26.5%、「全く感じない」が50%と高かった。 【29.4%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒と向き合う時間」や「授業準備時間」が増えたと感じる教員は29.4%で、「あまり感じない」と答えた割合が45.6%、「全く感じない」が25%であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒と向き合う時間」や「授業準備時間」が増えたと感じる教員は少なく、業務改善を進め、勤務時間内にゆとりが感じられるように具体的な対策を行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の点検の日を設け、PFI担当者との点検月1回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の点検を行い、危険箇所や不良箇所の情報共有及び改修することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・点検及び小規模な改修は速やかに対応できた。今後もPFI事業者と連携を密にして、危険箇所の解消に努めていく。ただし、大規模な改修については、PFI事業者が施行するか、学校が施行するかの判断を県教委と相談して、迅速に対応していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ・省資源への取り組みを進め、コスト意識を醸成し、消費電力量を削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・「消費電力量の削減」については、猛暑等の影響により達成することができなかった。(前年(4~12月)比101.5%) 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの使用電力量が大きな比率を占めるが、生徒の体調管理を十分考慮しつつも、授業空き時間のスイッチ切り忘れ防止について呼びかけ強化や、省エネ型の電化製品への交換に取り組んでいく。